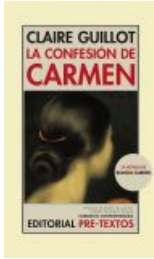


La confesión de Carmen

カルメンの告白



著者: [Román Gubern](#) ロマン・グベルン [1]

言語: スペイン語

発行年: 2012

ページ: 224

刷数: 1

定価: 17.00 €

ISBN: 978-84-15297--74-1

ジャンル: その他

AUTUMN

2012

シーズン: 秋 2012

『カルメン』の著者である作家プロスペル・メリメが1870年にカンヌで死去した後、彼の書斎では下書きや草稿、未完成原稿など、出版を意図していたかどうか定かではないものが多数見つかった。歪曲や冗談が好きなメリメは、初期の戯曲ではJoseph

L' Etrangeというペンネームを用い、単なる翻訳者・编者であるかのようなふりをした。戯曲集の『Le Théâtre de Clara Gazul

(1825)』もそのひとつで、スペイン女優が書いた作品として、表紙にその肖像画が掲載してあった。またその2年後には、『La Guzla』の作者をHyacinthe

Maglanovichとし、またもや自身はただの翻訳者だとした。確かにメリメは、プーシキンやゴーゴリを厳密に訳し、フランスにロシア文学を紹介した人物である。仮面をかぶり、偽の著者を作りだしたこの文学者のお遊びには、彼の作品の研究者たちがこれまで大きな関心を寄せてきた。

メリメが遺した未完成で修正がたくさん入った数々の原稿の中に、Claire

Guillotの作とする『カルメンの告白』があった。これはドン・ホセという男性によって語られたメリメの有名な作品『カルメン (1845)』と同じ物語だが、ここでは登場人物のジブシー女性自身が自分のストーリーを語るという形が取られている。この乱雑で読解困難な断片からなる原稿が、この物語のもととなっている。

Source URL: <http://www.newspanishbooks.jp/book-jp/la-confesion-de-carmen>

Links:

[1] <http://www.newspanishbooks.jp/author-jp/roman-gubern-romanguberun>